“まだいるんですか？ 人をばかにする人・・・”

近年、お笑い番組が変わってきました。10年ぐらい前は、大御所と呼ばれている人たちが、若手芸人をいじる？からかう？などバカにすることで笑いをとる番組が主流でした。若手芸人にとっては、テレビに出るチャンスであり、メジャーになるための登竜門だったようでした。自分は、漫才や落語などは好きでしたが、こういう人をいじって、バカにして笑いをとる番組、それを高みの見物をしている大御所芸人が大嫌いで、この時期にはお笑い番組を一切見なくなりました。このようなテレビの影響は大きく、テレビで放送されたものを子供たちは、“やってもいいこと”、“おもしろいこと”、“みんなが喜びこと”、と勘違いしてしまうようです。実際、あるテレビ番組で変な衣装を着させられた若手芸人を地方の道路に番組の撮影とだまして連れていき、スタッフが隠れていなくなり、置き去りにするという企画がありました。その若手芸人は、周りにスタッフが誰もいないことに気づくと不安そうに変な衣装を着たまま地元の方にいろいろ聞いていました。その様子をモニターで大御所芸人たちが見て爆笑していました。本当に嫌な番組でした。そのとき自分の勤務していた学校で、みんなで遊ぶから〇〇時に集合と、クラスメイトを公園に呼び出し、その子がくる前にみんなで隠れ、その子がどうするのか、その様子をくすくす笑いながら見ていて、その子が泣きながら帰っていく姿に爆笑するという事件が起きました。その時の子どもたちの言い訳は、“テレビでやっていて、面白そうだったから”でした。本当に最悪でした。また、これは1つの例で、同じようにテレビの番組をまねして人をばかにする事件はたくさん起きました。近年は、いじめに対する関心が高まったこと、多様化社会が言われるようになったことで、“人をばかにして笑いをとる”という番組はかなり少なくなりましたが・・・。

皆さんの周りではどうでしょうか？まさか“女(男)のくせに・・・”とか、できない人をばかにしたり、“くるなよ・・・”などと排除するようなことを言っている人はいませんよね。これを言っている人は、社会に出るときっと居場所がなくなってしまいます。何をするにもこういうことを言っている人とは一緒に仕事はしたくないですし、商売などの取引も遠慮したいですね。これから求められるのは、いろいろな人がいて当然と理解すること、そしてそういう人たちとどう関わるのがベストなのかを考えることです。学校でもいろいろな人がいます。その中で勉強や行事、部活動など一緒にやっていくことは社会に出るためにはとても大切なことです。クラスや学年、部活動、気(波長)が合う人、合わない人がいるのは当たり前なのです。いつまでも自分の小さな尺度(ものさし)でしか人を見られないようだと、自分の居場所も小さくなってしまいます。そうならないためにも周りの人との関係を広げてみてはいかがでしょうか。人を否定ではなく、肯定するところから始めてみてください。きっといい関係が広がるはずですよ。